

## 九州支部

## 大分医科大学第2内科

後藤陽一郎, 後藤育郎

後藤 純, 田代隆良, 明石光伸

那須 勝, 糸賀 敬

## 同 第2外科

葉玉哲生, 調 丞治, 賀来清彦  
長門記念病院 長門 宏

珪肺で経過観察中, 肺門部早期肺癌を合併した症例を経験したので報告した。症例は, 67才, 男性, 咳嗽が持続するため昭和58年2月気管支鏡検査を施行し, 左上幹に気管支壁内に限局した高分化扁平上皮癌の診断をえて3月左上葉切除術を行なった。

### 19. 稀な組織像 (Adenocanthoma with pseudosarcomatous proliferation) を呈した肺癌の1例

## 宮崎医科大学第2外科

中嶋試司, 柴田紘一郎

和気典雄, 林 麻美, 井上正邦

鬼塚敏男, 迫田耕一郎

関屋 亮, 古賀保範

## 同 第1病理

住吉昭信

## 同 第2病理

河野 正

組織発生上より稀な Adenocanthoma with pseudosarcomatous proliferation の組織像を呈する肺癌の一例を経験したので報告する。

### 20. Colony stimulating factor 産生肺癌の一例

## 久留米大学第一外科

大森康弘, 児玉一成, 磯辺 真

武岡有旭, 枝国信三, 掛川暉夫

57才の男性, 咳嗽, 喀痰で発症し, 異常な好中球増多を伴ない, X線上, 右上肺野に7×8cmの腫瘍を認めた症例で, 手術後, 皮下転移巣より colony stimulating factor (CSF) が産生されていることが認められ, 白血球過増多はCSF産生によるものであることが証明された。

### 21. Colony stimulating factor

## 産生肺癌と思われる一例

## 鹿児島大学1外科

三谷惟章, 有村利光, 山王邦博

下高原哲朗, 浜畑弘記

草野 力, 高尾尊身, 西 満正

## 同 腫瘍研

菊池 博, 松元 実

臨床的及び実験的にヌードマウス移植, CSF活性の検討からCSF産生肺癌と思われる一切除例(低分化腺癌)を報告した。

### 22. 胸廓内に病変を有したホジキン病の二例

## 鹿児島大学第一外科

有村利光, 下高原哲朗

山王邦博, 徳重正弘, 才原哲史

金子洋一, 三谷惟章, 西 満正

## 同 放射線科

久木原上子, 小山隆夫

## 同 第二内科

大窪利隆, 植松俊昭

野村紘一郎, 橋本修治

縦隔原発と頸部原発の2例について報告した。

### 23. び慢性中皮腫の1例

## 長崎大学第2内科

福田義昭, 井上祐一, 中西久貴

植田保子, 神田哲郎, 鈴山洋司

山口恵三, 重野芳輝, 齊藤 厚

原 耕平

## 長崎大学第一外科

綾部公懿, 富田正雄

### 長崎大学検査部病理 津田暢夫 三菱病院内科 塚本竹久

54才男性, 56年8月胸膜炎出現し某病院へ入院治療したが治らず胸筋生検, 胸水検査数回施行。57年1月開的生検により中皮腫の診断がついた。ADMにて対症したが, 58年4月死亡した。アスベストの仕事に従事した職業歴があった。

### 24. 良性疾患との鑑別に困難をきたした肺癌の一例

## 熊本大学第二外科

荒木昌典, 大嶋寿海, 山下純一

### 島田信也, 中川昭十, 赤木正信 同 第一内科 興梠博次

発症時Consolidation様陰影で始まり, 早期より空洞形成が認められ, しかも薄壁空洞であり, 良性疾患との鑑別が困難であった末梢型SCC肺癌を経験したので報告する。

### 25. Eaton-Lambert症候群を呈した肺小細胞癌の1例

## 国療沖縄病院

久場睦夫, 川平 稔, 石川清司

国吉真行, 源河圭一郎

## 琉球大学

中野政雄, 外間政哲

症例は65才の男性, 昭和56年11月より構音障害, その後, 嚥下障害, 眼瞼下垂, 腰部から下肢の脱力出現。胸写上, 右肺門部に腫瘍陰影。組織診はoat cell ca. Tensilon test (-)。筋電図上, 低頻度刺激でwaning, 10Hz以上の刺激にてwaxingを認める。放射線及び化療にて臨床的改善をみた。

### 26. 珪肺合併原発性肺癌の検討 大分医科大学第二内科

田代隆良, 後藤 純, 後藤育郎

後藤陽一郎, 明石光伸

那須 勝, 糸賀 敬

## 同 第二外科

葉玉哲生, 調 丞治,

## 長門記念病院

長門 宏, 三浦 肇

珪肺合併肺癌16例について検討した。発症部位では左右8例づつであり, 肺葉別では上葉9例, 下葉7例であった。組織型別では扁平上皮癌7例, 大細胞癌4例, 小細胞癌3例, 腺癌1例, 腺扁平上皮癌1例であった。これらより発癌過程に対し若干の考察を加え報告した。

### 27. 原発性及び転移性肺腫瘍の臨床的検討

## 長崎大学第二外科

## 九州支部

古賀伸一郎, 川崎康彦

原田英二, 押淵英晃, 井沢邦英

原田 昇, 伊藤俊哉, 土屋涼一

昭和38年より57年に, 教室で経験した原発性及び転移性肺腫瘍について臨床的検討を加えた。原発性肺腫瘍24例中切除できたのは3例のみであったが, 今後適応のあるものについては積極的に手術を施行していきたい。

### 28. 肺転移を伴う小児固形悪性腫瘍

鹿児島大学小児外科

小島洋一郎, 有馬栄徳

田原博幸, 西 満正

神経芽腫肺転移は極めて稀とされているが自験32例中5例に発生全例死亡, 年長児, 後縦隔発生例では要注意といえる。肝芽腫8例中2例にみられ, 1才11ヵ月男児例は肝腫瘍全摘と横隔膜・両肺転移巣全摘で術後10ヵ月生存化療続行中で他は死亡している。原発巣全摘と適正な化療が最も重要と思われる。

### 29. 肺癌の脳転移について: 過去5年間の臨床的検討

久留米大学放射線科

西村 浩, 永安 治, 横手敏明

袋野和義, 赤川春美, 浜田正之

小金丸道彦, 大竹 久

同 第1内科

広松雄治, 市川洋一郎

庄司紘史

肺癌脳転移症例32例について, CT所見を中心とした組織型別特徴を述べ, 放射線療法の有用性を強調した。

### 30. 高齢者肺癌の臨床的検討

宮崎医科大学第2外科

和気典雄, 柴田紘一郎

林 麻美, 井上正邦, 中嶋誠司

鬼塚敏男, 迫田耕一郎

古賀保範

平均寿命の延長と共に高齢者肺癌(70才以上)も増加しつつあ

る。教室では現在まで135例の原発性肺癌を経験し, 内高齢者肺癌33例について, 術後合併症と予後について臨床的検討を加え報告した。

### 31. 教室における扁平上皮癌の検討

久留米大学医学部第1外科

永田 潔, 武岡有旭, 枝国信三

八塚宏太, 岩本元一, 橋本憲三

磯辺 真, 西村 寛, 掛川暉夫

同 第2病理 入江康司

扁平上皮癌80例中肺門型38例(47.5%)肺野型42例(52.3%)と肺野型の方がやや多かった。肺門型の切除率は47.4%, 肺野型では86.8%であった。組織型では肺門型では高分化な傾向のものが多く肺野型では多彩な組織像を示し一定傾向はなかった。

### 32. 当施設で経験した肺癌症例(85例)の発見動機と診断までの期間の検討

大分医師会アルメイダ病院呼吸器科 後藤育郎, 甲斐隆義

大分医大第2内科

那須 勝, 後藤 純, 田代隆良

肺癌症例(85例)を検討し, (1)肺癌を高率にかつ早期に発見する為には, 高年齢層の検診を充実する必要がある。(2)有症患者に対しては早期受診の啓蒙をしなければならぬ。(3)第一次医療機関での早期発見の努力を訴えねばならぬ。以上の結論が得られたので報告した。

### 33. 小型肺癌症例の検討

大分県立病院胸部血管外科

内山貴堯, 南 寛行, 高木雄二

山岡憲夫, 本田裕崇

昭和48年以来, 当科で切除した肺癌は173例で, このうち腫瘍径2cm以下の小型肺癌は16例であった。14例は検診により発見され, 検診が有用であった。リンパ節転移は5例にみられ, うち4例は再発したが, No例では

再発をみていないが, 2.1~3cmの例で16.6%に再発があり, 腫瘍の大きさに影響があった。

### 34. 肺癌切除例における他臓器合併切除例の検討

産業医科大学第2外科

徳永裕之, 吉村 博, 石倉義弥

村上 勝, 小田桐重遠

川原英之, 藤田博正, 永田真人

下川路正健

肺癌切除例80例中他臓器合併切除例は12例であり, 75才以上が1/3を占めていた。胸壁切除8例, 左房, 横隔膜, 気管支, 胸壁と左房各1例ずつであった。術後やや長期間の呼吸管理を要すが, 3年生存が2例あり, 平均生存期間でもⅢ期切除例に比べ長かった。

### 35. Ⅲ期進行肺癌の外科的適応について

九州がんセンター呼吸器部

原 信之, 田中康一, 一瀬幸人

野下貞寿, 宮崎一博, 石松豊洋

大田満夫

282例のⅢ期進行肺癌を対象にし, 切除例, 試験開胸例, 非手術例の予後の比較からⅢ期症例の手術適応について検討した。その結果, T<sub>3</sub>N<sub>0-1</sub>, T<sub>1-2</sub>N<sub>2</sub>例で準治癒手術が可能な症例が手術の対象となり, T<sub>3</sub>N<sub>2</sub>例では手術の効果を認めなかった。

### 36. 肺癌stage III切除例の検討

大分県立病院胸部血管外科

山岡憲夫, 内山貴堯, 南 寛行

本田裕崇

Stage III切除例は70例で約半数が検診にて発見されており, 65才以上が38.1%と多く, T<sub>3</sub>症例とN<sub>2</sub>症例に分けると, T<sub>3</sub>症例はsqが72%と多く, 胸膜心膜浸潤例が多かった。術式は肺全摘の比率が高く, 準治は非治に比し有意に予後は良いが, 準治2生率44%で血行性転移による死因